

## 「ヒマラヤ山村民の命と暮らしをまもる植林」事業

### ヒマラヤでの「生活林」創出事業が完了 大きな成果をあげ、新たな挑戦を開始

ヒマラヤでの環境破壊と自然災害を防止するため、AJOSCの支援のもとにNPO法人ヒマラヤ保全協会が行ってきたネパール西部での「生活林」創出事業が集大成の年を迎えた。2万本の植林を終え、すでに大きな成果をあげている。さらに、シェルバ族の住む「エベレスト街道」での植林事業も始まっている。

#### お金をばらまいても 真の友情は生まれない

標高8167mのダウラギリを望むネパール西部のダウラギリ県ミャグディ郡。AJOSCの助成による植林事業も3年目を迎え、当初の予定通り、この2年間で育てた苗木をすべて植林する作業が2012年6～8月の雨期に行われた。各家から最低1人は参加するという規定も守られ、村をあげての行事だ。

この事業の目的は、樹木の乱伐によって枯渇した森林資源を守り、地すべりや斜面崩壊、土石流などの自然災害から村民を守ることにある。加えて、燃料や果樹、家畜

の飼料となる樹木を育て、経済的な面でも活用できる「生活林」を作る狙いもある。

活動を推進しているNPO法人ヒマラヤ保全協会・事務局長の田野倉達弘さんは、この3年間の成果を次のように語る。

「まず村民の意識が激変したことが大きいですね。当初は事業の意味もまったく理解されていませんでした。今の状況なら我々の手を離れても、活動は続くでしょう」

田野倉さんたちが現地初めて入った数年前、村人の対応は「金持ちの日本人がきて、お金をくれるらしい」というものだった。世界の屋根ヒマラヤはその知名度も手伝い、世界各国の慈善団体から寄付金が集まってくる。多くの団体がお金を落とすだけという活動をしていたため、こうした誤解が生まれていたのである。

しかし、ヒマラヤ保全協会の地道な行動と支援によって、今では村民たちは自らチームやルールを作り、率先して苗床を見守るようになった。

田野倉さんたちが出向いたときには、親友を迎えるような笑顔で接するようにもなっていた。「ただお金をばら



村人も生活林の重要性を理解し、積極的に植林へ参加する



まいても、友情は芽生えません。苦労を共にしたからこそ笑顔だと思っています」と田野倉さん。

村の娘たちは遠くまで薪をとりに出かける必要がなくなった。自然災害も減じた。今や村民全員が「生活林」のありがたさを実感している。

#### 自然との共生、地域の結束という 日本の文化が生かされている

同協会ではこの成功をもとに、新たにソルクープ地域のカリコーラ村でも事業を開始していた。カリコーラ村は最寄りの空港からエベレストに向かう途中ではなく、少し離れた場所にあるため登山者は立ち寄らない。そのため、慈善団体の対象からも外れている。

同協会が支援を決めたのはこうした背景もあるが、川をはさんだ対岸のカーレ地区が森林火災で焼けてしまったという理由もあり、この地域に植林をする計画をたてた。

この地域の住民はシェルバ族。ネパールの少数民族ながら、ヒマラヤ登山の際に荷役人(ポーター)として活躍している有名な部族である。

「ここでの事業は、これまでの地域よりもスムーズいきそうです」

田野倉さんによれば、シェルバ族はたいへん理解力にたけ、そのうえ、早い段階でプランテーション委員会が組



3年目を迎えた植林事業は大きな成果をあげた

#### 担当者より



植林と共に、  
村人の表情も変えた  
3年間でした。

NPO法人ヒマラヤ保全協会  
事務局長  
田野倉達弘さん

この3年間、私たちの活動に助成をいただきありがとうございました。今、現地に赴くと人々の表情の変化に驚きます。「森を守る」こと＝自分たちの生命や暮らしを守ること、という意味を理解したのです。私たちの活動はまだ続きます。これからもご理解とご協力をお願いいたします。

織され、リーダーシップのあるプレム・パハドール・タパ・マガルさんという委員長がいたことが計画をスムーズに進行させることになったという。

2012年7月に4日間かけて2万本ものヒマラヤ杉を植林し、一般の日本人なら歩くだけでも3～4時間はかかる山道を、彼らは1時間少々で苗木を運んだ。2万本のうち、7割近くは根付いて「生活林」になる見込みだ。

初年度のため、今回はヒマラヤ杉のみの植林となったが、次年度以降はミャグディ郡同様に飼料木や果樹なども植えていく予定である。

この活動も現地では有名になり、カリコーラ村周辺の村落からも植林の要望があがっている。同協会では、生活林として村民が主体的に管理できるかどうかなど、村ごとの状況をチェックしながらそれぞれの事情に則した支援をこれからも続けていきたいと考えている。



植えた木が大きくなったら村人自らが剪定する